

令和5年度第1回半田市高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会議事録

開催日時	令和5年7月6日(木)	14時00分～16時00分
開催場所	半田市役所4階 庁議室	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状伝達式 2. 副市長あいさつ 3. 自己紹介 4. 会長・副会長選出 5. 会長あいさつ 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 半田市高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会について <ol style="list-style-type: none"> ① 設置根拠及び目的について ② 令和5・6年度協議会組織について (2) 高齢者・障がい者虐待防止に関する協議について <ol style="list-style-type: none"> ① 報告事項 令和4年度高齢者虐待の実態及び虐待相談報告について 令和4年度障がい者虐待の実態及び虐待相談報告について ② 協議事項 令和5年度活動計画について (3) 障がい者差別に関する協議について <ol style="list-style-type: none"> ① 報告事項 令和4年度障がい者差別に関する相談について ② 協議事項 令和5年度障がい者差別に関する活動計画について 	
出席委員委員 (欠席委員)	栗田 友紀、伊藤 大介、佐々木 栄治、二宮 琴子、新屋 一郎（古橋委員代理）、蟹江 奈美（白木委員代理）、今井 友乃、杉江 徳長、竹部 益世 （植田 昭仁、岡崎 将司、榊原 広士） ※委員名簿順（敬称略）	
事務局	高齢介護課：沢田、茶谷、田中、岩本、加塚 地域福祉課：杉江、村上、杉浦、川口、天野、岡田 半田市包括支援センター：澤田、加藤、杉浦 半田市障がい者相談支援センター：加藤、山田	

議 事 録

○事務局あいさつ

(事務局) 皆様こんにちは。ただいまから令和5年度第1回半田市高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会を開会いたします。

本日は、植田委員、岡崎委員、榊原委員の3名が欠席です。なお、過半数以上の出席となっておりますので、設置要綱の規定により本会議は成立していることを報告します。

また、市民の皆様幅広く活動内容を周知するため、委員の名簿及び議事録をホームページなどで情報公開しますのでご承知おきください。

1. 委嘱状伝達式

2. 副市長あいさつ

(副市長) 皆様こんにちは。半田市副市長の山本です。

本日はお忙しい中、半田市高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、この度は本協議会の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。

さて、高齢者・障がい者に対する虐待は人の尊厳をおかす重大な問題でありまして、年々深刻化しております。こうした虐待がおきる背景には、複雑な家族関係、あるいは生活資金不足など多様で根深い要因が絡んでいます。残念ながら本市では昨年度は高齢者・障がい者合わせて39件の虐待事例の報告を受けています。その数を減らしていけるよう、また高齢者や障がい者を含み、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちとなるよう、委員の皆様には引き続きのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、委員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

3. 自己紹介

4. 会長・副会長選出

設置要綱第5条の規定に基づき、推薦により会長に今井委員、副会長に竹部委員を選出

5. 会長あいさつ

(会 長) 半田市のほかに知多半島内で虐待について関わっていますが、半田市は他の地域に比べて理解が進んでいる印象です。最近では、他の市町も施設虐待が多い印象であり、当事者である利用者はなかなか言い出せない状況にあります。また、施設内での虐待を通報した人が、「通報したら虐待をした方がかわいそう。」と言われてしまうことがあります。虐待をされている方は苦しい思いをしている。そういったものをしっかりと拾えるまちでありたいと思います。よろしくお願いいたします。

6. 議事

(1) 半田市高齢者・障がい者虐待防止連絡協議会について

- ① 設置根拠及び目的について
- ② 令和5・6年度協議会組織について
事務局から説明（資料1、2-1、2-2）
※質疑なし

(2) 高齢者・障がい者虐待防止に関する協議について

① 報告事項

- ・令和4年度高齢者虐待の実態及び虐待相談報告について
事務局から説明（資料3）

(委員) 介護記録で虐待がないと判断したのは、例えばどのような記録から判断したのですか。

(事務局) 被虐待者の精神状態が不安定などによって職員が対応に困ったこと、認知症の利用者に対し、介護方法に工夫をしており、それが職員間によって情報共有ができていかなど、本人の状態に適した対応ができていないかを見ています。不適切なケアになっていないかをそういった記録から判断しています。

(委員) 虐待対応終了後は本人等へ経過の確認をしていますか。

(事務局) 対応後は本人が利用しているサービス事業所には新しい痣などができていないか、ケアマネジャーには定期訪問時の様子などで不審点はないかなどを確認しています。

(委員) 虐待対応終了後に再発する事案はありましたか。

(事務局) 虐待者に精神疾患があり、精神科への受診につなげるなどの対応をしましたが、対応終了後に受診をやめてしまい、精神不安定となって虐待が再発する事案がありました。再度行政が介入し通院を再開するよう促したところ、通院の再開によって感情のコントロールができるようになり、現在は落ち着いた生活を送っています。

(委員) 警察からの相談を受けていますが、警察への通報は一般の方からの通報ですか。

(事務局) 被虐待者本人が自ら通報する事が最も多かったです。

(委員) 介護記録での判断を行うようになった経緯はありますか。

(事務局) 被虐待者の精神状態が不安定で聞き取りが困難な場合に、日常の記録から虐待の背景が読み取れる場合があるため、介護記録を確認するようになりました。

(委員) 介護記録の確認のみで虐待の有無を判断することはありますか。

(事務局) 介護職員への聞き取りなども併せて行うことで総合的に判断しています。

- ・令和4年度障がい者虐待の実態及び虐待相談報告について
事務局から説明（資料4）

(委員) 本人からの相談が少ないが、福祉事業所職員の意識が高いため本人より先に相談しているのか、他に少ない要因がありますか。

(事務局) 本人が事業所職員に出来事を話すことが多く、それを事業所職員が虐待と判断して市や警察へ相談するため本人からの相談件数が少なくなっています。

(委員) 施設で発生した事案で複数の虐待者がいたケースはありますか。

(事務局) 2名の職員が虐待していたケースがありました。

(委員) 令和5年度の施設虐待については現在どのような状況ですか。

(事務局) 障がい者の施設虐待は既に4件受けています。減少傾向にない状況です。

(委員) 対策はありますか。

(事務局) 施設職員に対し、研修を行うなどの防止策を行っています。

(委員) 高齢者施設についてはどうですか。

(事務局) 施設内での事案が、不適切な介護なのか虐待なのかの判断が難しく、職員や本人それぞれに聞き取りを行って判断をしています。高齢者施設でも同じように研修を行っています。

(委員) 施設内に防犯カメラが設置されていますか。

(事務局) 施設内に防犯カメラは設置されており、事案対応時には実際にカメラの映像を確認し、事実確認しているケースもあります。

② 協議事項

・令和5年度活動計画について

事務局から説明(資料5)

(委員) 実際に虐待をしてしまった養護者に対する講演会や研修はありますか。

(事務局) 認知症の高齢者の介護をする養護者は特に、関わり方に戸惑いがあり虐待になってしまうケースが多いです。そういった方に向けて家族介護交流会などを同時開催していく計画をしています。

(委員) 予防のための研修や講演会だけでなく、虐待をした方への研修などターゲットを絞った計画があってもよいと考えます。

(事務局) 虐待をした養護者は参加されない可能性が高いと想定し、虐待者向けの研修は計画してきませんでしたが、今後は参加しやすい工夫を考え、計画していきます。

(委員) 半田市は知多半島内では研修や講演会が多く、力を入れているイメージがあります。虐待件数が多い市町は権利意識がとて低く、低い原因は知識不足からきています。研修から意識向上に繋がっていくと考えます。

(事務局) 昨年度までは虐待防止講演会を単独で行っていましたが、虐待防止のみをテーマにした研修は、参加者の確保が難しい状況です。そのため今年度は、健康課が主催する認知症の講演会と共同開催することになりました。

(3) 障がい者差別に関する協議について

① 報告事項

・令和4年度障がい者差別に関する相談について

事務局から説明(資料6)

※質疑なし

② 協議事項

・令和5年度障がい者差別に関する活動計画について

事務局から説明(資料7)

(委員) 差別・虐待ワークショップとあるが、それぞれ性質が違うものであるため参加者が混乱しないですか。

- (事務局) 当事者向けのワークショップであるためわかりやすくなるよう、前半に虐待、休憩を挟み、後半から差別と、内容を分けています。また、当事者意識を持ってもらうため、差別と虐待について同日に実施している面もあります。
- (委員) 「ぶらりまちあるき」にはどのような方が参加しましたか。
- (事務局) 地域の方をはじめ、障がいのある方や、高齢者の方、小学生、地域の事業所の方などが参加しました。
- シルバーカーを利用している高齢者の方も小学生と共にまちあるきをしたことで、その後、まちですれ違った時には声を掛け合える関係になり、とても喜んでいました。地域の方が子どもたちにまちの良さ等を伝えることで、誰にでも活躍の場があると伝えることができました。
- (委員) 参加したことで、小学生たちとすれ違った時に声を掛け合えるようになったということで、地域とのつながりが広がって良かったと思います。
- (会長) 今回の協議会に参加した感想等をお願いします。
- (委員) 「ぶらりまちあるき」などで、地域で過ごしやすいように取り組んでいるのを学んだあと、何か生かせることはないかと考える中で、事務局が2階にあって高齢者や障がい者に優しい環境なのでそこから対応していきたいと思います。
- (委員) 自分の親は、車イスを使用していたが、飲食店を利用しようにも場所が限られていた記憶があります。しかし、今回の資料を見ると、今はこんなにも充実しているのかと思いました。
- また、高齢者の虐待については、介護をしている職員について考えると、高齢者本人の世話やその家族への対応などによって介護施設職員の負担が多いように感じています。そこについて考えると対応が必要だと思われるが、この会において話していく予定はありますか。
- (会長) 確かに施設職員の負担はかなり増えています。その環境をどのように改善していくか施設も含め皆で考えていく必要があります。
- (委員) 資料を見ていると市町村で取組みに差があると感じました。少しでも虐待を減らせるよう取組みに力を入れていく必要があります。
- (委員) 多くの方に理解してもらうために当事者が出ていくことが大切と思っており、今後も「ぶらりまちあるき」への参加は続けていこうと思っています。
- (委員) 施設虐待が起こる原因には人手不足などの環境による原因があると思います。施設内のみでの対応でなく、市で何かできることはないのかを決めていくことが大切だと思います。
- (委員) 施設職員の中でも、障がいのある方への対応などについて、全体として同じ方向に立てるように努めているところですが、不十分な印象なので研修に参加させるなどしてより努めていきたいです。昨年度にポスターを作成し掲示をするようにしたと思いますが、何か反響があれば教えてください。
- (事務局) 障がい者虐待については配布していたポケットティッシュを見て通報をしたというのが1件ありました。高齢者関係については、相談は受けていませんが、ポスターを見たといった感想を複数受けており、困った時には気軽に電話で相談できることの啓発につながっています。
- (委員) 相談から虐待の有無を判断する事は難しいと思います。虐待を減らすために、啓発や

研修の実施が大切と考えました。

(委員) 研修や講演会に参加することによって、虐待に対する意識が良い方によって周りの環境に気付くことができたというような改善が意見として見られると良いです。

(会長) 虐待と疑われる環境にあるような養護者や高齢者については、虐待の有無にかかわらず、何かしらの支援が必要な状況にあることがほとんどです。支援についても内容が大切なため、そこを意識して活動をしていきたいと思います。

(会長) 本日の議事はすべて終了しました。ありがとうございました。事務局へ進行をお返します。

(事務局) 委員の皆様には、長時間に渡りご審議いただき、ありがとうございました。本日いただいた貴重なご意見は、今後の対応等に活かしていきたいと思います。今後とも本協議会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

(以上)